

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

↑
取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症高齢者の特性を踏まえ、認知症になっても普通の生活を送れるよう支援する姿勢を理念としている。「口をだすな」、「手をだすな」、「見落とすな」を理念の基本としている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有の為に、施設内に掲示するとともに職員研修用のマニュアルにも掲載し、新任教育にも利用している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	介護はあくまで家族の協力と地域の理解と協力が必要であることを念頭に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内行事や、近隣の小学校の運動会などに参加するして地域交流に努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	推進会議を経て自治会行事に参加できるようになり地域の方との交流も出来始めている。又小学校との交流は以前より続いており運動会への参加、花の苗をいただくなどの交流を深めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症の理解と普及の為に、各種会議・研修会に率先して参画している。また、グループホーム事業の安定した運営のための情報等を発信している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	作業のサイクルとしての評価即ち見直しとしての自己評価であることを伝えている。改善事項があれば管理者、職員が一体となって取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催しており、各委員からも当方からの報告に対していろいろアドバイスを頂いている。最近では、委員に老人会長さんも加わってもらい地域情報が一層把握できるようになった。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月入居状況の一覧とひまわり通信を送付し、施設活動・生活状況を伝えている。また、利用申込者の情報を交換しながら、利用者に必要な支援を見出すよう努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	岐阜GH協が企画する成年後見・権利擁護の研修会にでたり、家族からの相談に的確に対応している。成年後見については、支援した経験も数例ある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修会を受講し事業所内での虐待防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時は、逐条ごとに読み上げ解説を加えて同意・納得してもらうことにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域相談員の訪問を1ヶ月に一度定期的にうけ、利用者の皆さんの相談者になっていただいている。そこでの気づきや相談をしていただいている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ひまわり通信を発行し、行事の様子等写真入りで発行している。金銭は小額に限って管理しているが定期的に収支報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情申し出法は契約書にも盛り込みかつ受付箱を設置し、ポスターも施設内各所に掲示して啓蒙している。また、行政の説明会にも毎年必ず出席している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝申し送りミーティングを開催するので、この場を利用した改善や要望事項を聴取し、取り組み出来るものから反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居があった当日に夜勤者を増やし対応したこともある。年末年始やお盆なども普段と変わらないサービスが提供できるように職員を確保している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は固定とし馴染みの職員による介護が受けられるように配慮している。ただ、職員は全入所者を把握しており他棟との交流も深いので他棟の職員であってもお互い馴染み顔になっている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最近も行政主催の感染症対策研修に4名が参加するなど、職員の資質向上に努めている。また、資格取得を目指す職員についても支援をしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜GH協が毎年実施する先進施設見学交流会に参加したり、新規開設事業者等から運営面の相談を受けるなど頻回に交流を重ねている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	慰安旅行、ボーリング大会、歓送迎会などの機会を設け職員の交流の場、ストレス発散に努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者・管理者が職員に声かけし、利用者へのかかわりや傾聴を多くするよう指導している。資格取得者の支援もしており、介護支援専門員や介護福祉士の有資格者が増えていることが資質向上に寄与し成果を挙げている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症の程度によっては本人の意思を聞くことや聞き入れることが難しい場合もありケアマネや家族との話し合いが主であることが多い。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に家族、本人との面会の場を設け何が必要なのかを把握するように努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム適応者であるか否かを見極めるとともに、他のサービス提供の橋渡しをしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたりいきなり入居するのではなく、事前に訪問して部屋を見ていただいたり、納得していただいた上で入居していただき、精神的ストレスやダメージの回避に努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーションを重視し喜怒哀楽を共有できるような人間関係が築けるよう努めている。	

岐阜県、グループホーム本巣ひまわり（花水木）

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には必ず声をかけ情報が共有できるよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	情報収集に重点を置き、把握できるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやり取りをしておられる方もあり、面会の制限等も特別決めている事はない。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う人、そうでない人等、難しい人間関係を把握する事に努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も転居先を訪問することもしばしばある。また、転居後の生活全般についての相談がある場合もあり、適正に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族の希望や本人の希望が出来るだけかなうように取り組んでいる。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、御本人からの情報収集はもちろんのこと、医療機関や支援センターなどからも出来るだけ多くの情報が得られるように働きかけ把握できるようにしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活リズム、パターンを把握するように努め個々の生活リズムを保ちながら生活していただいている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	御家族には面会時に情報提供すると共に今後の希望や考えをお聞きしプランに反映できるように努めている。また日ごりの様子を観察しそれぞれの受け持ちを含めた話合いやモニタリングを行い介護計画に生かしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	適宜見直しを行い状態変化にあったプランの変更を行って直している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に記入すると共に毎日の申し送り時に職員間で情報を共有適宜意見交換をして計画の変更実施に生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護予防やショートステイの指定を受け、多様な対応が出来る態勢は整備している。また、緊急の医療機関での診断についても送迎をホームで担当し家族の負担軽減に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	隣接する小学校への運動会や文化祭への参加、町内行事、消防署による防火・避難訓練の実施等を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近隣の歯科医師の協力により、訪問口腔衛生管理の実施体制が出来たので家族に案内しているところである。介護予防に繋がる成果を期待している。その他訪問美容なども実施している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用困難者の支援のため相談するなど、生保を含めた多様な話し合いをし支援につなげている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり（花水木）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携以外の病院等への受診も家族の希望があれば受け入れている。また個別の歯科や眼科、婦人科や皮膚科への送迎も行い、家族の協力を経て実施している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医と常に連絡を取り合いながらより良い医療を提供するように努めている。月に一度は精神科医による訪問診療を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	2名の看護師がケアマネージャーを兼務しており、常に利用者を把握し健康管理・服薬管理、往診時の補助などを行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が一番良い状態でいられるように提携病院へのコンタクト情報交換をし、また家族との話し合いの場を持つようにしている。退院後にも生活リハビリの必要な場合は、これを実施している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	GHの医療連携の指針を提示説明し、家族、医者、看護婦、スタッフ等が協力し、希望と同意があればターミナルケアも実施している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームで出来る事、出来ない事を家族に説明し納得していただいている。家族の意向を出来るだけかなえる為の努力もしている。また御家族の納得いくような医療行為が提供できるように医師との橋渡しの機能もはたしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族と共にケアハウスの見学から引越しまで立会いスムーズに住み替えが出来た経験がある。また情報提供は必ず行い利用者の精神的ストレスやダメージを防ぐ努力をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人一人のプライバシーの尊重に努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	強制するのではなく自分の思いを表現できるような働きかけをしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決まっているが自由に過ごしていただいている。それぞれが思うままに暮らせるように配慮している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個人的に美容院への送迎等も行い利用者の意向に沿えるように努力している。また毛染めなどの介助もしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表(メニュー)にこだわる事なく旬の野菜や魚を使うよう努めている。また買い物の前に利用者に食べたいものを聞くようにし希望にかなうような献立を工夫している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	当ホームにはアルコール依存症の方が入居されているのでお酒は公の場では許可できない。煙草は決まった場所で喫煙してもらっている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排尿間隔、パターンを把握しトイレ誘導する事で出来るだけ失禁を減らせるように努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意思が確認できなかつたり、チェアー浴やリフト使用により介助が必要な入居者に関しては曜日を決めて入浴介助している。自立、声かけ、見守り程度の方は毎日入っておられる方もあり、決まった日以外でも希望日に入っていたりしている。(最低でもその日は入浴して下さいという意味で曜日を定めている)		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活リズムを尊重し対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る事、今までしてきたことの継続を自信を持ってやっていただけるような働きかけをラッキョウや梅干作り、畑仕事や大工仕事等とおして行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力にあわせ小額のみ持っておられる利用者もある。紛失の可能性がある事を家族に説明している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、ドライブ、買い物など希望に応じて対応している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出、外泊等は家族の希望通りに行ってもらっている。病院退院時に家族の希望で自宅の周りを一周してお墓を車窓から拝む介助をしたこともある。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中お見舞いなど季節に応じた手紙を家族や友人などへ送る手助けをしている。又希望があれば電話の使用もしていただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間等は特に設けておらずいつでも面会していただけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		○	身体拘束をしないケアに対しては理解しているが他害の危険性が高く目が離せない状態なので御家族の承諾のもと車イスベルトや車イステーブルの前に固定している方もある。

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり（花水木）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		○	居室、玄関に鍵はかけておらず他棟との行き来は出来ているが、門をオートロックとしている。鍵をかけないケアは理想であると思っているが徘徊、外出によりオートロックが必要になっている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に入所者の所在確認と安全確認は行っている。又、夜間巡視時に眠れないと訴えられる入所者に対しホットミルクを提供したり落ち着かれるまで話を聞いて対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや包丁などの刃物は職員管理としているがレク等で必要時には職員の監視下で使用していただいている。異食行為のある入居者には食べられるものだけを提供しアルミホイールやラップなども事前に除去等注意を払っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的な消防訓練への取り組みやヒヤリハットや事故報告書の作成により危険予知を行い事故防止にとりくんでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会などを開き取り組むようにしている。また新聞記事などで他施設での事件などが起こると自分の施設に置き変えて話し合うなどし再確認するようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署の指導のもと消防訓練を実施し利用者にも参加していただいている。又消火器を使用しての消火活動にも参加していただき火災発生に対処している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者に起こりうるリスクは適宜家族に説明し了承を得ている。状況によっては医師の協力を得て家族と話し合うこともある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異常の早期発見に努めいつもと違うなど思う様子などがあればバイタルを測定しNSに報告して指示を仰ぐようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在飲んでいる薬の処方箋はそれぞれ棟単位で保管しておりいつでもチェックできるようにしている。薬変更時や開始時、増減量時なども申し送りで必ず伝え目的、効能、飲み方等を指導、状態変化等は記録するように指導。確実な服薬が出来るように飲み込んだかの確認をするようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼るのではなく、野菜を多く取るなどの工夫や、朝決まった時間にトイレに座ることにより自然排便につながっている利用者もある。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分で歯磨きの出来る入居者は声かけをし、洗面台まで行ける人は行ってから準備の援助。ベット上入居者はガーグルベースを準備しうがいを行っている。夜には入れ歯をポリドントにつけるようにしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算等はしていないがバランス良い食事の提供に心がけている。糖尿病などで食事制限がある場合等にも配慮している。水分は最低飲んでいただきたい量はおやつなどで提供している。夏場などは自由に飲めるようポットを設置。また個人的にペットボトルにお茶を提供している方もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防研修会に看護婦が参加し職員に指導をおこなっている。インフルエンザの予防接種は全職員、家族の承諾のもと全利用者に接種していただいている。また、タオルの使い回しを廃止し紙タオルにして使い捨てにウエルパス等も導入している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	季節の食材を2, 3日に一度のペースで買い物に行き新鮮な食材で調理できるよう配慮している。また食器類はそれぞれの入居者に洗っていただいているがその後に食洗器にかけ高温で殺菌できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口には家庭的な花壇を設け入りやすい工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節の飾りを利用者と共にレクリエーションの一環として手作りし今の季節が認識できるようにしている。居間や居室のカーテンは遮光・防炎仕様としている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭にベンチを置くことで気のあった入居者同士が会話を楽しんでいるスペースとしている。またソファに座り会話を楽しんでいる姿もよく見かける。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、たんす、ロッカーは備え付けであるがその他の小物や写真などは自由に持ち込んでいただき居心地よく過ごしていただけるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	オムツは新聞紙に包んでから捨て、トイレは常に換気扇を使用している。また、冷暖房は体温調節が上手いかず発熱される入所者もおられるので常に心がけこまめに室温調整するようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっている。トイレ、廊下、浴室内には手すりを設け安全確保に努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの表示や自分の部屋が分かる工夫。また、レクリエーション等を本人の能力に合わせたものを個々に提供している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	通路には花を絶やさず植え季節の花を入所者と一緒に植えるようにしている。中庭にも花壇を設け枝豆やイチゴなどを植え収穫の楽しみを共有できるよう心がけている。またテーブルや椅子を置いておりいつでも座って休憩や日向ぼっこし団欒できるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)